

平成20年度
宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞



大賞

杉本外科胃腸科医院



・所在地 宮崎市谷川1丁目

・主用途 診療所

・所有者 杉本 英彦

・設計者 (株)西本設計



■講評

外観や庭造りにも気を配り、また、小規模施設では整備基準に定めていない車いす使用者用駐車施設、スロープ手すり、男女別に車いすが利用できるトイレを整備している。障害者や高齢者専用としてではなく、施設全体について一体的にバリアフリーデザインを取り入れていることを高く評価した。これから他の施設整備の模範になると思われる。

宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞

この賞はバリアフリーデザインの普及を目的に、バリアフリーデザインが建築物のデザインに溶け込み、障害者や高齢者などが利用しやすいモデルとなるような民間建築物を表彰するために、平成20年度から毎年実施する予定にしています。

この賞の選考にあたっては、建築物の優れたバリアフリー化を促進させることを目的に設立された「宮崎市バリアフリー検討会」において行いました。この検討会は高齢者や障害者、子育て支援、建築、理学療法などといった専門性を持つ委員12名によって構成されています。

平成20年度は、平成13年度から18年度までに宮崎市福祉のまちづくり条例の整備基準に適合し、適合証を交付された562施設を対象に行いました。選考にあたっては整備基準の異なる小規模建築物と中・大規模建築物に分けたうえで、第一次審査においては書類での審査、第二次審査では現地審査を実施し、第三次審査により各賞の選出を行ないました。

優秀賞



ひだか歯科クリニック

- ・ 所在地 宮崎市高洲町
- ・ 主用途 診療所
- ・ 所有者 日高 剛伺
- ・ 設計者 寺山俊郎建築研究室

■講評

出入口、受付、待合、診察、トイレへの動線を短くして、高齢者や障害者などが動きやすく、また、トイレはベビーシートや小便器を設けて障害者や高齢者専用ではなく、一般用と兼ねて広くつくられている点、車いすのまま入ることが出来る診察台を設けるなどの配慮について評価した。

南部自治公民館

- ・ 所在地 宮崎市大字塩路
- ・ 主用途 公民館
- ・ 所有者 宮崎市南部自治会
- ・ 設計者 川辺幸秀一級建築設計事務所

■講評

任意に車いす使用者用駐車場や屋外スロープに両側手すりを設置していること。また出入口や廊下、車いす対応のトイレなど広々とつくられ、動きやすいことなど、地域住民の高齢化を考え、模範的にバリアフリー化を行っていることを評価した。



イオンモール宮崎

- ・ 所在地 宮崎市新別府町
- ・ 主用途 ショッピングセンター
- ・ 所有者 イオンモール(株)
- ・ 設計者 (株)竹中工務店

■講評

巨大ショッピングモールながら、車いす使用者用駐車場やトイレ、EV、エスカレーターをバランスよく配置していること。トイレは「みんなのトイレ」として、介護シートやオストメイト対応設備、ベビーシートを設置するなど、様々な利用者のこと考えて施設整備を行っていることを評価した。

優秀賞

こごうメンタルクリニック

- ・ 所在地 宮崎市中村西3丁目
- ・ 主用途 診療所
- ・ 所有者 古郷 博
- ・ 設計者 や和らぎ設計

■講評

車イス使用者駐車場から出入口、受付、待合、診察、トイレ、EV、階段への動線を短くして動きやすく、トイレはベビーシートやオストメイト対応設備を設置するなどの模範的な整備や、デイケアや訪問看護を行い地域に貢献するといったところを評価した。



宮崎県市町村職員共済組合 ひまわり荘

- ・ 所在地 宮崎市瀬頭2丁目
- ・ 主用途 ホテル
- ・ 所有者 宮崎県市町村職員共済組合
- ・ 設計者 (株)浦島マコト建築総合研究所

■講評

2台分の車いす使用者用駐車場を設け、そこから玄関まで屋根付通路を設けていること。車いす対応客室が1階で避難もしやすい位置にあること。車いす使用者だけでなく、視覚障害者や聴覚障害者に対する配慮をしている点など、様々な利用者に対して整備している点を評価した。



夾竹園大塚本店

- ・ 所在地 宮崎市大塚町
- ・ 主用途 飲食店
- ・ 所有者 (株)夾竹園
- ・ 設計者 (株)エム・ティ・ピィ設計

■講評

増築に伴い建物全体のバリアフリー化を行い、雨の日も濡れないよう出入口近くの上屋のある部分に車いす駐車場を設けたり、EVを設置するといった模範的な整備や、障害者施設の人たちを毎年招待するなど、地域に貢献していることについて評価した。



奨励賞

医療法人 雅会 作医院

所在地 宮崎市波島1丁目

主用途 診療所

所有者 医療法人 雅会

設計者 (株)東洋ホーム

■講評

診療部門では一般用を兼ねて男女別に車いす対応トイレの設置や、廊下に手すりを設置していること。高齢者のデイサービス施設を併設し、地域貢献を行っている点を評価。



びっくりドンキー 大島町店

所在地 宮崎市大島町国草

主用途 飲食店

所有者 オリックスアルファ(株)

設計者 大和ハウス工業(株)
宮崎支店



■講評

屋外スロープは基準より緩やかであり、トイレも車いすだけではなく、ベビーシートを設置して多目的につくっていること。店内は段差がなく移動しやすい点を評価。

魚乃里 ぎょれん丸

所在地 宮崎市港2丁目

主用途 飲食店

所有者 宮崎県漁業協同組合連合会
組合連合会

設計者 (株)別当設計

■講評

整備基準に定めていないEVや避難設備である点減型誘導音付誘導灯を模範的に設置していること。トイレにベビーシートを設置していることを評価。



大盛うどん

所在地 宮崎市江平西1丁目

主用途 飲食店

所有者 (有)大盛うどん

設計者 (株)黒井組



■講評

宮崎市福祉のまちづくり対象施設整備補助金を活用して、平成15年に和式トイレを男女別に車いす対応のトイレに改修した。これにより、高齢者や障害者の利用が増えている点を評価。

■宮崎市バリアフリー検討会委員(敬称略)

審査委員

米村 敦子 宮崎大学教育文化学部教授

永山 昌彦 NPO 法人 障害者自立応援センターYAH!DO みやざき理事長

平川 洋 財団法人 宮崎身体障害者福祉協会常務理事

廣志 秀月 社団法人 日本オストミー協会宮崎県支部副支部長

馬渡 幸三郎 NPO 法人 宮崎市視覚障害者福祉会理事長

黒田 奈々 NPO 法人 ドロップインセンター理事長

審査委員

松浦 邦晴

宮崎市聴覚障害者協会会長

原口 信子

宮崎市肢体不自由児(者)父母の会会長

武田 穎彦

社団法人 宮崎県理学療法士会会長

小倉 豊

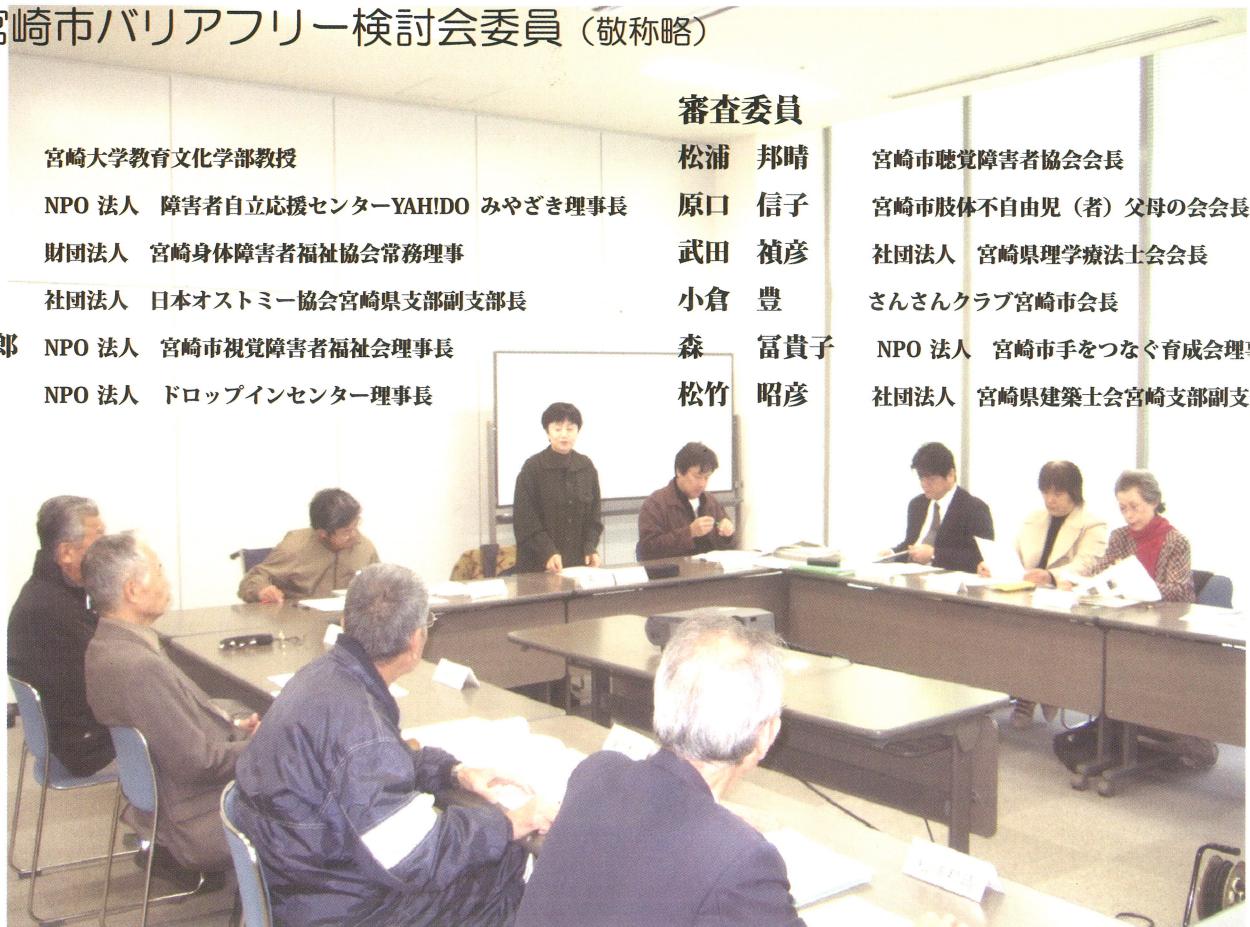
さんさんクラブ宮崎市会長

森 富貴子

NPO 法人 宮崎市手をつなぐ育成会理事長

松竹 昭彦

社団法人 宮崎県建築士会宮崎支部副支部長



審査をふりかえって

米村 敦子 議長

「宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞」の審査は、私たち「宮崎市バリアフリー検討会」が担当いたしました。初年度のため不慣れな点もありましたが、さまざまな立場の委員により書類審査・現地審査・意見交換の総合的検討を行って各賞を選出しました。誰もが住みよいまちづくりは一朝一夕に成るものではありません。外出や生活活動を行う上で危険や不便となるバリアを確実に取り除いていく努力を休まず続けていくことが大事だと思います。今回顕彰された建物が市民の皆様の目に触れ、利用され、これから建物のモデルとなって、バリアフリーの普及・促進が図れますように願っています。



永山 昌彦 委員

昔からすると、随分、私たち車椅子ユーザーも入りやすい建物が増えてきました。30年前に宮崎市の車椅子ガイドブックを作った当時を思い返すと感慨深いものがあります。

宮崎市は平坦な地形が多いですので、車椅子ユーザーの私たちにとっては外出しやすい街だと思います。入りやすい建物が増えていくことで、車椅子ユーザーを街で見かけることが多くなるでしょう。この賞がその一助になれば幸いです。



平川 洋 委員

今回初めての「だれもが住みよいまちづくり賞」が制定されました。民間建築物のバリアフリー化の進展に寄与することと喜んでいます。

選考にあたっては、実際の建物の外回り（道路から入口まで）、内部（入口から内部の各施設設備等）について見せていただきました。建物の用途がそれぞれ異なっていたし、規模の大小もあり、一律に比較することは容易ではありませんでした。それぞれの立場において、障害者、高齢者など移動等に弱い立場の人々に温かい心遣いをしていただいているということが強く感じられました。



廣志 秀月 委員

二次審査現地視察で全ての建物で周辺との調和や建物デザインに景観を重視され、それぞれの建物に、施設の利用目的に適したデザインが工夫されていました。

車いす専用駐車場（高齢者・歩行困難者・他の障害者・妊婦・乳幼児連れ等に配慮のお願い）。佐賀県、熊本県では具体的に実施）が玄関近くに設置され段差がなく、出入口は自動ドアが設置され、フロアもバリアフリー化され、室内も機能的にデザインされ外観と同じく検討されたことが伝わってきました。審査の重点項目の一つ、トイレ設備も多目的トイレが設置され、どの物件も審査に苦労しました。



馬渡 幸三郎 委員

小さな施設でも、バリアフリーに努力しているところがあり、感心しました。



黒田 奈々 委員

観察させて頂いたどの施設でも「いらっしゃい、ようこそ」と優しく出迎えられるようでした。すべての人が利用しやすいよう工夫された建物の中では、障がいのある、なしにかかわらずどんな人も一人ひとりが尊重されていると感じます。今回の表彰を通じて、宮崎市全体にこころのバリアフリーが広がり、すべての人が笑顔で暮らせるまちになることを願っています。



宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞

主 催：宮崎市

事務局：宮崎市都市整備部建築指導課

河野 牧太郎 氏

(松浦 邦晴 委員代理)



対象施設を見て回る中で、すばらしい配慮がしてあることを説明されて初めて気づきました。ある施設の入口付近の滑り止めのタイルもその1例です。バリアフリーの視点が取り入れられていて感激しました。

さりげなく当たり前に環境整備がなされる大切さを本賞選考を通じて学びました。聴覚障害で言えば、手話・文字情報などが当たり前に受けられる環境が整うと良いなと感じました。

適合証がどの施設でもマッチしていて嬉しかったです。これからも益々期待したいです。



原口 信子 委員

バリアフリーの建築が出来ているところは外出してみましょうと思いますが、トイレだけ、1ヶ所だけのバリアフリーでは利用する側は大変エネルギーがいります。けれど、障害者、高齢者にとってバリアフリーではなくてはならない建築物です。増改築までしていただいたところには、大変感謝申し上げます。評価したいと思います。



武田 穎彦 委員

今回、審査をさせていただいて、バリアフリー化が進み、街やまちづくりの考え方が変わってきてることを実感することが出来ました。大規模で多くの方々が利用する施設は勿論、既存の建物でも大規模な改修ではないが、少しでも利用しやすいように努力していただいている点など、心温まると思いました。けれど、建物はあくまでもハード面だけですので、これを利用する方々、その周りの方々の心のバリアフリーによって有効に活用されることを願います。



小倉 豊 委員

賞の選考にあたっては、施設の規模やデザインに違いはあっても、利用しやすいバリアフリーの施設であることを中心に施設訪問をさせてもらいました。しかし、「だれもが住みよい・・・」となると、今ひとつ大事なこととして、その施設を訪れる、誰もが歓迎されていると感じられる環境デザインと気配りが体感される施設経営も期待したいと思います。



森 富貴子 委員

大・中・小に係わらず、しっかりしたコンセプトをもって自己主張している建物が、結果大賞を贈られたように思います。今回訪問した建築物は、いずれも、バリアフリーはもちろんのこと、ソフト面も含めて他に対する心配り、特に暮らしにくさを抱えている弱い立場の人たちへの思いやりが感じられ、その存在感をアピールしていました。私は、「其処に人間が温かく居る」ことが感じられることを大切な用件にしたいと思いました。



松竹 昭彦 委員

建築士会より建築関係者として「宮崎市バリアフリー検討会」に参加させていただいております。この度の審査選考に参加させていただき、その取組みはそれぞれの施設により異なりますが、多くの皆さん（事業者）が施設利用者に配慮された建物造りを進められていること、またそういう時代であることを実感できましたし、建築関係者として刺激を頂きました。ありがとうございます。今後この大賞が多くの方に認知され、ますます宮崎が住みよいまちになっていくことを心から願っています。

〒880-8505 宮崎市橋通西1-1-1

TEL : 0985-21-1813 FAX : 0985-21-1815

E-mail : 3Osisou@city.miyazaki.miyazaki.jp